

こだま Q&A



Q72

PT（プロトロンビン時間）やDダイマーなどの凝固用採血管（3.2%クエン酸Na入り）の採血後の検体はどのように保存すればよいですか。

A72

冷蔵ではなく室温（16～30℃）での保存が推奨されており、その理由は、結果に影響を与える可能性があるためです。

CLSI（臨床検査標準協会）のガイドラインには、遠心の有無にかかわらず、血漿分離されていない検体の冷蔵保存は推奨されていません。冷蔵によりPTでは第7因子の活性化、APTTではvWF（von Willebrand 因子）と第8因子の低下の可能性があるためとされています。

なお『総合検査案内』では、2015年版発行時には「室温」に変更しています。

項目コード	検査項目	検査方法	基準範囲(単位)	検体量(mL)	容器	保存	所要日数	検体科	備考
1023-03	PT (プロトロンビン時間)	散乱光度法	10~14	秒	(血液1.8) (クエン酸Na)	① 室温	1~2	125 (血液)	18
1022-03	APTT (活性化部分 トロンボプラスチン時間)	散乱光度法	25~37	秒	(血液1.8) (クエン酸Na)	① 室温	1~2	29 125 (血液)	
1000-03	フィブリノゲン	散乱光度法	180~400	mg/dL			1~2	23 125 (血液)	
1027-03	トロンボテスト (TT)	散乱光度法	70~130	%	(血液1.8) (クエン酸Na)		1~2	125 18 (血液)	

お問合せ：☎代表 0120-14-7191(フリーダイヤル) / 082-247-7191(ダイヤルイン)

きやつちボール

明けましておめでとうございます。

昨年は広島東洋カープが25年ぶりのセリーグ優勝を飾りました。流行語大賞に「神ってる」が輝くなど、カープが、広島が飛躍したとても印象的な一年となりました。当検査センターでは、「甲状腺疾患」「貧血」「CKD」の3つの疾患別検査ガイドの発刊や、検査データ手帳の新設、医療関連サービスマークの取得など、当検査センターも飛躍したとても印象的な一年となりました。

本年も引き続き、会員の先生方の支援および地域医療の発展拡充に貢献できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

杉本 恭紀（システム管理課システム係主任）

広報委員

谷敷 圭美 / 亀石 猛 / 橋本 健 / 藤井 ひとみ / 三宅 康雄 / 初岡 博 / 井上 安奈